

国立国語研究所学術情報リポジトリ

A Qualitative Research on the Evaluation for the Refusals to Friends : Through the Evaluation of Japanese Native Speakers and Chinese Non-native Speakers of Japanese

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 滕, 越, TENG, Yue メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001453

友人への「断り」に対する評価に関する質的考察 ——日本語母語話者と中国人日本語話者の評価を通して——

膝越（東京大学大学院総合文化研究科）[†]

A Qualitative Research on the Evaluation for the Refusals to Friends —through the Evaluation of Japanese Native Speakers and Chinese Non-native Speakers of Japanese—

Yue TENG (The University of Tokyo, Graduate School of Arts and Science)

要旨

異文化間の「断り」に関しては、中間言語語用論などの分野で、「言語や社会的規範の違いにより衝突が起きやすい」と論じられることが多い。本研究では、個人差に焦点を当て、評価の視点から研究を進めた。『BTSJ コーパス』から5つの「友人の依頼への断り」の音声データを選択し、日本語母語話者3名と中国人日本語話者3名に、断られる側の視点に立って、5つの音声の好ましさをプロトコル分析とインタビューを通して評価してもらった。その結果、録音ごとに評価が比較的一致しているものとばらけているものがあり、特に評価のばらつきが大きかった2つの録音は、評価者の「友人への断り」における基本的態度が、「合理性・効率性重視」か、「心情・気遣い重視」かで評価が分かれていた。また、今回のデータからは、評価のばらつきと評価者の母語との関連性は見いだせなかった。

1. はじめに

異文化間における「断り」に関する研究は、Beebe et al.(1990)に始まり、中間言語語用論や対照語用論の分野で盛んにおこなわれている。これらの研究の多くは、ロールプレイや談話完成テストを通して得た「断り」の例における意味公式¹の使用を分析し、2つの言語間の差あるいは中間言語と目標言語の差を分析している。また、多くの研究には、異文化間の「断り」は、言語や社会文化的規範の違いによって衝突が起きやすいと論じられている。

一方、近年では母語話者が学習者の「断り」を受けてどう感じるかに焦点を当てた評価研究も現れているが、これらの研究は量的調査を通して母語話者の評価の全体的な傾向を求め、「ある種の断りは母語話者に不快感を与える恐れがあるため、学習者はそれを避けた方が望ましい」という結論が提示されている。例えば、マスデン（2011）では、大学生日本語母語話者に対し、学習者が産出した①「今夜は無理/だめ、疲れているんだ」、②「ちょっと用事がある…ごめんね」、③「私は疲れていて眠いよ。残念だけど、今日はできない。またほかの日に誘って」の「断り」のうち、どれが最も失礼と感じるかを調査しているが、①が最も失礼と答えた母語話者は54%、②が最も失礼であると答えた母語話者は44%であるため、学習者は①や②の表現は避けたほうが望ましいと述べていた。

このように、同じ言語の母語話者でも、「断り」に対する評価はばらつきが大きいことがわかる。本研究は、一個人の「断り」への評価には、母語の影響はどの程度あるかという課題のパイロットスタディとして、少数の日本語母語話者と中国人日本語話者を例に、「断り」²の評

[†] yueteng0808@gmail.com（お手数ですが、*の部分を実線に変えてください）

¹ 「断り」の意味公式とは、「『謝罪』『言い訳』『代案』など、人がものを断るときに使、うことばを、その意味内容によって分類したものである」（生駒・志村,1993）

² 本研究での「断り」は、「口頭での会話において、相手の働きが始まってから、会話が収束するまでの、断り

価値のばらつきの様相を調査し、その背後にある「断り」への態度の違いの解明を目指した。

2. 研究方法

本研究では、『BTSJによる日本語話し言葉コーパス（トランスクリプト・音声）2011年版』の「4. 女性同士の断りの電話会話」の音声データ（以下、『BTSJ コーパス』の「断り」）を利用して、3名の日本語母語話者と3名の中国人日本語話者（以下、評価者）の評価の様相を調査した。調査の方法は、まず、音声データを評価者に聞かせ、好ましい順に順位付けをしながら、その過程での心的思考をできる限り口に出して録音するという、プロトコル分析³の方法を用いた。その後、順位付けの理由やプロトコルの内容、「断り」に対する価値観などについてのインタビューを行った。

2.1 評価対象となる音声データ

『BTSJ コーパス』の「断り」は、データ採集の協力者が、同性の先輩、後輩、同級生に対し、「近日中の国立国語研究所での言語実験の代行」の依頼を実際に行い、依頼から断りまでの一連の自然談話（電話会話）を録音したものである。今回の実験では、同級生の依頼に対する「断り」の録音のうち、タイプの異なる5つの録音（A～E）を筆者が選択⁴し、評価者に聞かせた。ここに、A～Eの録音の、断る側の主な発話と意味公式⁵、録音の特徴を掲出する。

録音 A (1'30")

あ、ごめん、明日授業。（謝罪＋理由）→

うん、ごめん。（謝罪）→

行って調べるの？（働きかけ内容の詳細確認）→

代わりに立てられるの？（同情・関心）→

ほんとにごめんね、なんか。（謝罪）→

大丈夫そう？（同情・関心）

特徴：具体的な理由、躊躇ない断り、複数回謝罪、関心

手の一連の発話。働きかけを聞いているときの反応や、相槌、笑いなどのパラ言語的要素も含む」とする。

³ 理解や問題解決の過程など本来内的な認知的処理を、それらの処理に伴って起きる言語化など、観察可能な行動から分析する研究方法。「考えていることをできるだけ声に出して説明してください」などの指示によって言語化を誘導し、そこに現れた言葉づかい、表現などを分析する。発話思考法。（中島ら、1999）

⁴ 本研究と『BTSJ コーパス』の対応は以下に示すとおりである。A：68-4-JBI03-JSK03， B：69-4-JBI04-JSK04， C：70-4-JBI05-JSK05， D：72-4-JBI07-JSK07， E：75-4-JBI10-JSK10。

⁵ Beebe et al.(1990)の意味公式を基に、筆者が一部改正したものをを用いている。

録音 B (2'31")

空いてはいるけど行きたくない。(直接的な断り・願望/能力の否定) →
 25日でしょ?(働きかけの一部を繰り返す) →
 パスポート取らせてくれ。(理由) →
 どこなの?(働きかけ内容の詳細確認) →
 えー,いやだ。それもいやだ。うんーー,い,いやだ。
 (直接的な断り・願望/能力の否定) →
 苦手。(理由) →
 えーっと。(フィラー) →
 すいません。(謝罪) →
 なんか電話すごく不思議なかけかたしたね。(話題転換)
 ごめんね。(謝罪)
 特徴: あいまいな理由, 明確な断り, 感情豊か, 最後に謝罪

録音 C (2'13")

あー, そっかー。(不明確であいまいな返事) →
 9時から3時間かー。(働きかけの一部を繰り返す) →
 沈黙→
 そっかー, なんか, ちょっと…(言葉を濁す) →
 ちょっときついかも。(直接的な断り・願望/能力の否定) →
 申し訳ない。ごめんね, なんかね。(謝罪) →
 私の知り合いみたいな人で, 聞いてみようか?(代案の提示) →
 申し訳ない。(謝罪)
 特徴: 理由なし, 躊躇しながらの断り, カミ口調, 複数回謝罪, 代案提示

録音 D (2'07")

うん, そうなんだ。(不明確であいまいな返事) →
 あ, あたしにやらないかってこと?(働きかけ内容の詳細確認) →
 えー[↑]。(直接的な断り・否定的感情の表出) →
 うん, 明日テストあるんだ。(理由) →
 ちょっと無理だね。(直接的な断り・願望/能力の否定) →
 しかも, 明日あれだよ, あの, グロックじゃん。(理由) →
 悪いね。(謝罪) →
 特徴: 受動的な理由, 否定的感情の表出, 最後に謝罪

録音 E (1'10")

あ,なんかバイト? (働きかけ内容の詳細確認) →
 それはなんかだめかもしれない。(直接的な断り) →
 まだテスト終わってないので。(理由)

特徴: 躊躇ない断り, 明確な理由, 簡潔で機械的, 謝罪なし

2.2 評価者概要

今回の研究の評価者は,日本語母語話者3名と中国語母語話者3名⁶で,いずれも20代である。評価者の属性の詳細を表1に示す。

表1 評価者属性

日本語母語話者				
評価者	性別	職業	外国語学習歴	海外滞在歴
ア	女性	大学院研究生 (言語学) 英語塾講師経験あり 日本語教育修士号取得	英語 10 年 フランス語 2 年	なし
イ	女性	大学非常勤講師 (英語, 3 年目)	英語 15 年 中国語 3 年	アメリカ 1 年
ウ	男性	大学生 (言語学) 英語家庭教師経験あり	英語 10 年 ロシア語 3 年, イタリア語 2 年, ラテン語, サンスクリ ット語, ドイツ語, フラ ンス語半年, 韓国語 1 年	なし
中国人日本語話者				
評価者	性別	職業	外国語学習歴	日本滞在歴
カ	女性	同時通訳アシスタント	日本語 13 年 英語 10 年	1 年 2 か月
キ	女性	大学院生 (言語学) 中国語家庭教師の経験 あり	英語 19 年 日本語 13 年 韓国語 3 か月	3 年 2 か月
ク	男性	大学院研究生 (国際関 係学) 日本語教師の経験あり	英語 13 年 日本語 8 年	1 年 3 か月

今回の調査では,評価対象となる音声は「女性同士」の会話であるため,より依頼する側の

⁶ 現在日本滞在中,日本語能力試験 N1 レベル,8年以上の日本語学習歴を持つ。十分な日本語能力があり,プロトコル分析やインタビューも日本語で行った。

立場に立っての評価が容易と考えられる女性の評価者に多く依頼した⁷。また、実験の前に、研究の目的、実験方法、個人情報保護等について説明を行い、承諾書に署名をいただいた。

3. プロトコル分析における順位付け

表2 評価者の順位付けの結果

評価者	評価者属性	順位付け結果
ア	日本語母語話者,女性	C>A>D>E>B
イ	日本語母語話者,女性	A>D>B>C>E (インタビュー後,C>B>D>A>Eに変更 ⁸)
ウ	日本語母語話者,男性	B>E>D>A>C
カ	中国人日本語話者,女性	B>A>C>E>D
キ	中国人日本語話者,女性	C>A>D>B>E
ク	中国人日本語話者,男性	C>A>D>E>B

表2の順位付けの結果から、直観的に2点の考察が得られる。

まずは、評価者の属性と順位付けの結果には、必ずしも明確な関連性はないということである。ア、ク両氏は母語も性別も異なるが、順位付けの結果は同じであった。ウ、ク両氏は性別は同じであるが順位付けの結果は正反対で、ア、ウ両氏は母語は同じであるが順位付けの結果は正反対であった。このことは、主に母語の差に注目して行われている先行研究の不足点を裏付ける結果となった。

また、それぞれの録音への評価は、比較的まとまっているもの(A, D, E)と評価者ごとにばらつきが大きいもの(B, C)があることがわかる。次節では、特に評価のばらつきが顕著であったBとCの2つの録音に絞って、「断り」のどのような要素で特に評価のばらつきが大きいかについて考察を進めていきたい。

4. 録音Bと録音Cへの評価

4.1 録音Bへの評価

録音Bは、順位付けの結果、1位(最も好ましい)とした評価者が2名(ウ、カ)、3位とした評価者が1名(イ)、4位とした評価者が1名(キ)、5位(最も好ましくない)とした評価者が2名(ア、ク)であった。録音Bにおいて、多くの評価者が言及していたポイントについて、その評価の性質を表3にまとめた。

⁷ ただし、今回の調査では、男性の評価者から、性別の違いが原因で女性の評価者よりも依頼した側の視点からの評価が難しい、という意見は得られなかった。

⁸ イ氏は、インタビューの後半で、録音を聞き直し、再考して順位付けを変更している。ただし、イ氏本人が「でも、最初のほうが正しかったのかも。あとは、あとのほうはちょっと考えすぎちゃってるから」と述べていたため、本稿では主に変更前の順位と評価について分析する。ただし、必要な場合は変更の理由や変更後の順位にも言及する。

表3 録音 B への評価の性質

「断り」の要素	プラス評価	マイナス評価	言及なし
「空いてるけど行きたくない」, 「いやだ」	イ,ウ,カ	ア,キ,ク	
「パスポートとらせてくれ」	イ,ウ,キ	ア,カ,キ ⁹	ク
笑い	イ,カ, (ウ)		ア,キ,ク

録音 B において,6 名の評価者の評価を決定づけた要素と言えるのは「空いているけど行きたくない」, 「いやだ」といった発話であろう。

この発話に対して,プラスの評価をした評価者は次のように述べている:

- (1) まあ印象がいいなというか,正直で。その方が助かります。なんか,相手の断りたい気持ちがちやんとわからないと困るし,(中略)ちゃんと自分の都合を話してくれるので,なあなあにされない方がお互いにやりやすいかなって。(ウ氏)
- (2) 「えー,空いてる,でも行きたくない」って,冗談,何っていえばいいのかな,ふざけてるみたいな感じで,シリアスさを感じない。(中略)結構ポップな感じだったよね。雰囲気がいい。(イ氏)
- (3) さっぱり断るのもいいと思いました。「時間あるけど行きたくない」って。なんかこの人,面白くて,かわいくって,素直かなって。(カ氏)

プラスの評価の理由は,B の断り手の人間性の実直さ,そして会話の全体的な雰囲気へのプラスの影響などであった。この 3 名の評価者は,録音 B について,断り手の人間性の暖かさ,両者の関係性の良さ,そして笑いや相槌など,会話全体の雰囲気に関連する言及がほかの 3 名より多く見られた。

一方,「空いているけど行きたくない」, 「いやだ」について,マイナスの評価をした評価者は次のように述べている:

- (4) それちょっと素直過ぎない,って思うんですよ。たとえ行きたくないから断る場合でも,もう少し,相手に負担をかけないように言ったらいいんですか,こっちとしては協力したいんだけど,物理的に無理,時間的に無理っていうような風に断られるのであれば納得できるんですが。(ア氏)
- (5) うーん,ちょっとなんか,言い方がはっきりしすぎますね。たぶん普段の性格とかにもよるんですけど,でももう少し,相手の気持ちを,はい,考えてほしい気持ちもあります。(キ氏)
- (6) そういわれたら,まあ,親友だから納得できないっていうか,傷つくと思う。(中略)本当は行きたくないんだけど,言い訳をして,相手の気持ちを守るために,ちょっと他の言い訳で,「行けない」っていうとか。自分的にはそっちのほうがいいと思う。(ク氏)

⁹ プラス評価,マイナス評価の両方に名前がある評価者は,その項目に対し,プラス面,マイナス面の両方の評価をしたことを指す。() で名前を囲った評価者は,明確にその項目に言及していたわけではないが,関連の事項について言及していたことを指す。

マイナス評価の理由は、3名とも比較的一致しており、感情の表出がはっきりしすぎており、断り手の依頼する側への配慮が不足しているということにあった。

また、録音 B では、「行きたくない」と断ってから、「パスポート取らせてくれ」という理由の後付けを行っている。この発話について、イ、ウ両氏は、用事があるということがよく分かったというように、単に理由を述べている風にとらえていたが、ア、カ両氏は、「正当な理由があるなら先に言って（ア氏）」、「ちょっと理由つけている感じ（カ氏）」とやや否定的にとらえていた。また、キ氏は、

(7) 「取らせてくれ」の言い方がちょっと、自分的には好きじゃない。でも、たぶんこの二人の関係はすごくいい、からかもしれないですね。（キ氏）

と述べており、全体的に否定的な評価をしながらも、二名の発話者の関係性の良さは認めていた。

4.2 録音 C への評価

録音 C は、順位付けの結果、1位（最も好ましい）とした評価者が3名（ア、キ、ク）、3位とした評価者が1名（カ）、4位とした評価者が1名（イ）、5位（最も好ましくない）とした評価者が1名（ウ）であった。録音 C において、多くの評価者が言及していたポイントについて、その評価の性質を表 4 にまとめた。

表 4 録音 C への評価の性質

断りの要素	プラス評価	マイナス評価	言及なし
「私の知り合いみたいな人で、聞いてみようか？」	ア、イ、ウ、カ、キ、ク	イ、ウ、カ	
沈黙、力み口調 ¹⁰ 、「うーん」	カ、キ、ク	イ、ウ、カ	ア
謝罪	ア、キ、ク	イ	ウ、カ

録音 C は録音 B とは対照的で、依頼を受けてからの沈黙の時間が長く、言いよどみや力みの口調を用いるなどの特徴があり、全体的な評価に大きく影響していた。

この特徴について、プラスの評価をした評価者は次のように述べており、ここに誠実さや依頼側への配慮を感じ取っていた。

(8) 結構悩んでる感じがしました。（中略）間に、10秒くらいの空白の時間があって、本当に、行くかどうか結構この人は悩んでいる人だなんて思いましたね。たぶん、本当に行っ

¹⁰ 定延（2005）で、りきみ口調とは、重い荷物を運ぼうとしてなかなか持ち上がらなかったときに、つめていた息が漏れ出して出る「んんん、んん、んん」のような声、または足の小指を思いきりたんすの角にぶつけてしまったとき、涙をにじませ、小刻みに体を震わせながら漏れる、「ん、んんん、んん」のような声と描写している。また、話し手ががりきむ局面として、苦しみ、関心、「いわゆる強調」の三つを挙げており、「苦しみ」の局面は心理的な苦痛による場合もあるとしており、「相手の前で恐縮してみせる」ときにもりきみ口調は良く用いられるとされている。録音 C のりきみ口調はこの類であろうと予想される。

てあげたいからこそ,そんな風に悩んでいるんだと思います。(キ氏)

- (9) 真剣に考えている。行くか行かないか考えてくれて,そっちのほうが,行きたくないんだけど,そのまま断ったらこっちの気持ちを傷つけるっていうのが,それがよくないって考えてくれているみたいで,大事にしてくれているような感じがします。(ク氏)

一方,マイナスの評価には次のようなものがあった:

- (10) 「うーん,んん」って。その,考えるんだったら何を考えているのか教えてほしい。(中略) 何も言ってくれないのは,なんかこう,隠しているように感じるのかな。(イ氏)

- (11) 行きたくなさそうなのはすごくわかるから,さっさと断ってくれても仕方ないかな。むしろそうしてくれないと,こっちのほうがちょっと悪いことしている感じがする。(ウ氏)

沈黙に対してマイナスの評価をした評価者は,何を考えているのかわからない,または断りたそうなのに断らないために,ストレスを感じるようであった。プラスマイナスの両面に対して言及のあったカ氏は,「ちゃんと考えてくれた」が「考える時間ちょっと長すぎ」と両面の評価をしていた。

また,録音 C では,自分の知り合いに聞いてみるという代案の提示を行っていた。6名の評価者すべてが,この代案提示に対してプラスの評価をしていたが,イ,ウ,カ三氏は「自分は悪くない状況にしたいから」,「聞きたくないのに言っているようでずるいかも」などのマイナス評価も同時にあった。

さらに,録音 C の複数回の謝罪については,ア,キ,ク三氏は「申し訳ない気持ちがすごく伝わる」と高く評価していたが,イ氏は,最後の謝罪の声の調子が淡々としていて,途中の力み口調とのギャップに誠意を感じないと述べていた。

5. 「直接性」への評価からみる「断り観」

録音 B と録音 C への評価を分析すると,「断りの直接性」という要素への評価の背後に,6名の評価者の「断り」に対する内的価値観(以下,「断り観」)の違いが垣間見える。本節では,どのような「断り観」が「直接性」の評価に影響していたのかを見ていきたい。

イ,ウ,カ三氏は,録音 B の「いやだ」や「行きたくない」に対して,「素直でわかりやすい」とプラスの評価をしており,録音 C の沈黙や言いよどみに対して「何を考えているのかわからず,ストレス」とマイナスの評価をしていた。この三名の評価者は,友人に対して断るときは,腹を割って率直に断るのを良しとしており,「断り」において効率性や合理性を重視していると考えられる。

ア,キ,ク三氏は,録音 B に対しては,「はっきりしすぎて傷つく」とマイナスの評価をしており,録音 C に対しては「自分のために悩んでくれている」とプラスの評価をしていた。この三名の評価者は,友人に対して断るときは相手への配慮が大切と考えており,「断り」において心情や気遣いを重視していると考えられる。

以上について,図 1 にまとめる。

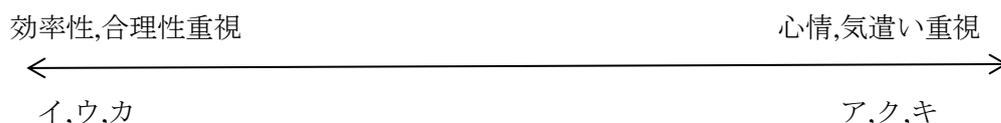


図1 6名の評価者の「断り観」

この図からみると、「直接性」に関する「断り観」は評価者の母語とは直接的な関連性は見受けられず、必ずしも我々が考えるような、「日本人は心情重視で、中国人は直接的」というステレオタイプには一致していなかった。

但し、「効率性重視か、気遣い重視か」は、「断り観」を構成する要素の内の一つであり、この要素だけで今回の順位付けの結果を解釈できるわけではない。また、自分が断る側に立ったときに用いる断り方と、断られる側に立ったときに好ましいと思う断り方が一致していない評価者もあり、今後さらに深い考察が必要と言えよう。

6. 結論と今後の課題

本研究では、「断り」に対する評価に焦点を当て、『BTSJ コーパス』の5つの断りの音声を、日本語母語話者と中国人日本語話者に聞かせ、プロトコル分析とインタビューを通して、一部の音声に対する評価の様相と、その背後にある「断り観」の一端を見出すことができた。

今回のデータに対する分析では、特に「感情を表出した直接的な断り」と「カみ口調や沈黙などのパラ言語的要素」への評価に大きなばらつきがみられ、その背後には「断りにおいて重視するのは効率性や合理性か、それとも心情や気遣いか」という「断り観」が作用していることが示唆された。また、今回収集したデータが、日本語母語話者や中国人日本語話者を代表しているという保証はないが、プロトコル分析の順位付けの結果も、インタビューの分析からも、評価者の母語の違いが、「断り」への評価に影響するという根拠は示されなかった。

今回の調査では、主に「効率性/合理性」⇔「心情/気遣い」という視点から「断り観」の違いの一端を明らかにしたが、「断り観」には、このほかにも、様々な構成要素があると考えられる。今後は、より大規模な量的調査を実施し、統計的な処理を施すなどの方法を通して、「断り観」の構成要素を解明し、「断り」の母語差と個人差の関係についてより深く考察していきたい。

謝 辞

本論文の作成に当たって、指導教員の東京大学総合文化研究科宇佐美洋先生には、実験の方法、データ処理、論文の書き方に至るまで、様々な面から多くのアドバイスをいただいた。また、チューターとしてお世話になっている同研究科の王牧さん、ディスカッションで火花を散らし合っている宇佐美ゼミの皆さま、そして評価者として本研究に参加して下さった6名の評価者の皆さまからも、たくさんのアイデアをいただいた。あらためて感謝申し上げます。

参考文献

- 生駒知子・志村明彦 (1993) 「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー；『断り』という発話行為について」『日本語教育』79, pp.41-52.
- 宇佐美まゆみ (2007) 「改訂版：基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ) 2007年3月31日改訂版」『談話研究と日本語教育の有機的統合のための基礎的研

- 究とマルチメディア教材の試作』平成 15-18 年度 科学研究費補助金 基盤研究 B(2) (研究代表者 宇佐美まゆみ) 研究成果報告書
- 宇佐美洋 (2014) 『「非母語話者の日本語」はどのように評価されているか——評価プロセスの多様性をとらえることの意義』ココ出版
- 王源・山本裕子 (2015) 「親しい友人に対する断り行動の日中対照研究」『人文学部研究論集』 34, pp.19-35.
- 近藤佐智子 (2009) 「中間言語語用論と英語教育」『上智短期大学紀要』 29, pp.73-89.
- 定延利之 (2005) 『ささやく恋人、りきむレポーター』 岩波書店
- 施信余 (2005) 「依頼に対する『断り』の言語行動について——日本人と台湾人の大学生の比較」『早稲田大学日本語教育研究』 6, pp.45-61.
- 中島義明ら (1999) 『心理学辞典』 有斐閣
- 古村由美子 (2011) 『成人バイリンガルの「断り」場面における対人葛藤対処方法に関する研究——英語母語話者は日本語英語話者の対処方法をどう評価するのか——』 花書院
- マスデン眞理子 (2011) 「日本人大学生が失礼だと感じる留学生の誘い・断りの表現に関する予備調査」『熊本大学国際化推進センター紀要』 2, pp.51-73.
- 李海燕 (2013) 「『断り』表現の日中対照研究」 東北大学博士論文
- Leslie M. Beebe, Tomoko Takahashi and Robin Uliss-Weltz. (1990). “Pragmatic Transfer in ESL Refusals”, In R.C.Scarcella, E.Anderson & S.C. Krashen (eds.), *Developing Communicative Competence in a Second language*. Boston, Heinle & Heinle Publishers, pp.55-73.
- Shoshana Blum-Kulka and Elite Olshtain. (1984) . “Requests and Apologies: A Cross-Cultural Study of Speech Act Realization Patterns (CCSARP)”. *Applied Linguistics*, 5:3, pp.196-213
- Gabriele Kasper. and Shoshana Blum-Kulka.(eds.)(1993). *Interlanguage Pragmatics*. New York: Oxford University Press.